

環境研究総合推進費
「釧路湿原にて超高密度化状態となったシカの管理を成功させる戦略と戦術」
との連携について

●事業のねらい

①時空間利用と植生・土壌環境への影響評価

- ・シカの日周行動・季節移動の追跡と自然環境への影響の調査

②生物多様性保全を可能とする広域個体群管理

- ・釧路湿原と周辺部での適切な管理手法と体制の追究
- ・北海道が目指す「エゾシカ広域捕獲推進モデル事業」と地域自治体等が実施するシカ管理を結びつける

③地域住民・市町村での情報共有及び協働による湿原保全と個体数管理手法の検討

- ・関係機関の連携と市民参加型のシカ管理

●実施体制

- ・研究機関：酪農学園大、北海道立総合研究機構環境科学研究センター、釧路公立大
- ・事業期間：平成26年度～28年度（3カ年）

●昨年度の成果（詳細はスライドにて説明）

- ・釧路湿原のシカは湿原内を年中生息地とする個体が多く、湿原外に季節移動する個体であっても、市街地近くなど一般狩猟が実施されていない場所を生息地としていた
- ・航空機センサスにより2015年の冬季のシカ密度は1994年と比較して数倍増加していることが明らかになった
- ・釧路湿原の環境保全に関わるステークホルダーの方々のシカ捕獲に対する要望は強い

●今年度事業

①シカの行動追跡調査

- ・釧路川右岸堤防でGPS首輪5基装着済み
- ・コッタロ地域等でGPS首輪5基装着予定

②植生調査

- ・釧路湿原及び周辺丘陵地20地点で調査

③国際ワークショップの開催

- ・英国王立鳥類保護連盟のデイビッド・モリス（David Morris）氏を招いて、国際ワークショップ「湿原保全のためのシカ管理 希少鳥類との共生を考える」を開催した。
日時：8月2日（日）会場：釧路市生涯学習センター まなぼっと

④ヘリセンサス

- ・冬季に釧路湿原にて、ヘリコプターを用いたシカ個体数センサスを予定